原発ゼロ長岡市民ネット　街頭での呼びかけ　　2026 年 10 月 11 日

ご通行中の皆さん。私たちは「原発ゼロ長岡市民ネット」です。東京電力福島第一原発事故を繰り返させてはならないとの思いで、毎月 11 日にこの場所からみなさんに訴えをしています。

今日は、柏崎刈羽原発の 6 号機の話をします。本年 4 月に再稼働して以来、大きなトラブルの報告はなく、一見順調に見えますが、実は毎週のように小さな事故、たとえば協力会社の社員が作業中の事故で腕を骨折したとか、さまざまなトラブルが報告されています。しかし、破局的な状況がいつ起きても不思議ではないと専門家が指摘するように、実は、深刻な問題を抱えています。

6 号機の基準地震動は 1209 ガルです。基準地震動とは、原発を設計する段階で最大級の地震を想定してそれでも大丈夫だという目安になるもので、6 号機の場合、1209 ガルです。しかし、果たしてそれでよいのかという問題があります。というのは、中部電力の浜岡原発の場合、過去の地震のデータを捏造して基準地震動を小さくしました。この基準地震動の値が大きければ、それだけ原発を頑丈なものにしなければならず、建設コストが大きくなります。そのため、浜岡原発の場合、地震データの捏造により、基準地震動を小さくしたのです。東電の柏崎刈羽原発の場合、そういうことがなかったのかわかりません。

皆さんは 2007 年 7 月 16 日に起きた中越沖地震を覚えておられるでしょうか。その 3 年前の 2004 年 10 月 23 日に起きた中越地震もたいへんでした。どちらもマグニチュード 6.8 で、強烈でした。中越沖地震の場合、震源は柏崎の沖合でしたので、原発に大きな衝撃を与えました。3 号機の変圧器から火災が発生し、原発の敷地の道路に大きな亀裂と段差が生じました。

柏崎刈羽原発の敷地には小さな 38 本の断層が潜んでいることがわかっています。このほかに重要な断層が近くにあります。長岡平野西縁断層帯です。もう少しわかりやすく言うと、長岡平野の西のへりにあり、新潟市から小千谷市まで南北に走る全長 80 キロの断層帯です。昨年 1 月、政府の地震調査研究推進本部調査委員会は、長岡平野西縁断層帯でマグニチュード 8 程度の地震が今後 30 年以内に発生する確率が 3%以下の S ランクにあると発表しました。つまり、A からさらに１ランク上の S に上がったのです。なお、マグニチュード８程度の地震というのは、マグニチュードが６．８であった中越地震や中越沖地震に比べて、放出されるエネルギーが約６４倍にもなる規模の地震です。

能登半島沖から佐渡にかけて活断層があります。この活断層が動いて、能登半島大地震を引き起こしましたが、専門家は、この活断層の割れ残りに言及しています。いつ、こうした活断層が動いて原発に深刻な影響を与えるかはまったくわかりません。一番よいのは、柏崎刈羽原発の 6 号機の稼働を停止することです。

なお、いまお配りしているチラシにあるように、11 月 23 日午後、中央図書館で「原発再稼働を考える市民のつどい」が開催されます。関心のある方はぜひこのつどいにもご参加ください。　**（1,149 字＝約 5 分）**